

【町長・農業委員会会長】

通告順	1	質問 議員	畑地議員
質問 項目	水害の教訓を活かすには		
質問 内容	<p>8月6日は雨竜川が氾濫し、避難及び多くの農地が浸水被害にありました。5年前の2018年7月3日にも同様の氾濫があり、多度志観測所の水位計ではピーク時58.54mを記録しており、今回のケースにおいてピーク時は14cm低い58.40mであった。降雨の特徴としては朱鞠内湖周辺にトータル241mmもの雨量があったが、沼田町周辺ではトータル100mmに達しておらず、上流との危機意識に差が出ていました。</p> <p>休日の早朝からの災害対策で、関係者の対応には感謝していますが、過去の災害から改善できることは無いのか。</p> <p>町長：災害対策本部の立ち上げと避難等のタイミングについて                  ①前日までに準備出来ること、事前に打合せ等があったのか。                  ②事前放流に関する関係機関との連絡調整は十分だったのか。</p> <p>農業委員会会長                  水田利活用の制度変更で水田の畑地化を促進する動きがあるが、農地が持つ保水機能低下や畑作物での水害による生産性低下が懸念されます。沼田町における影響をどの様に把握しているか。</p>		

# 道北大雨 3日で1カ月分

## 羽幌などJRきょう47本運休

道内は5日、温かく湿った空気が流れ込んだ影響で、道北を中心に激しい雨が降った。降り始めの3日から5日午後10時までの72時間降水量は、留萌管内羽幌町で185ミリ、同管内初山別村で154ミリ、上川管内下川町で148・5ミリ、同管内美深町で146ミリ、留萌管内羽幌町焼尻で140・5ミリを観測し、8月の平年1カ月分の総降水量を超えた。土別市は避難指示を発令し、JRの運休も相次いだ。6日にかけても日本海側を中心に断続的に雷を伴った激しい雨が降る見通し。札幌管区気象台は、低い土地の浸水や土砂災害、河川の増水に注意を呼び掛けている。

降水量は、留萌管内羽幌町で185ミリ、同管内初山別村で154ミリ、上川管内下川町で148・5ミリ、同管内美深町で146ミリ、留萌管内羽幌町焼尻で140・5ミリを観測し、8月の平年1カ月分の総降水量を超えた。午後10時までの24時間降水量は上川管内幌加内町朱鞠内で108・5ミリ、名寄市西風連で101・3ミリなど。旭川市は32ミリ、札幌市中央区は18ミリだった。土別市では、市内の温根別川の水位が「氾濫危険水位」に達したため、温根別北地区の17世帯39人に避難



激しい雨が降る中、信号待ちする人たち。5日午後0時35分、旭川市（西野正史撮影）

指示を出し、午後7時までに避難所に6世帯9人が避難した。JRの宗谷線と富良野線で特急6本を含む列車30本が運休。道警交通管制センターによると、5日午後10時現在、国道1路線1区間、道道11路線14区間が通行止めとなっている。6日にかけて予想される1時間降水量は多いところで日本海側、石狩、空知管内で40ミリ。6日午後6時までの24時間降水量は、日本海側北部で最大120ミリ、日本海側南部、石狩、空知管内で同100ミリと予想される。

JR北海道は、6日の宗谷線と富良野線で特急6本を含む列車47本の運休を決めた。

一方、道内は前日までの暑さがいくぶん和らぎ、30度以上の「真夏日」は全道174観測地点のうち、33・5度を記録した渡島管内木古内町など13カ所にとどまった。札幌市中央区は29・4度と、5日ぶりに真夏日とならなかった。

(矢崎弘之、工藤俊悟)

# 福島40.0度

史上最高、各地で猛暑日

日本列島は5日、西日本から北日本の広い範囲で高気圧に覆われ厳しい暑さとなり、福島県伊達市で午後2時ごろに最高気温40・0度を観測した。今夏、40度に到達したのは全国で初めて。最高気温が35度以上の猛暑日は全国914の観測点のうち274地点に上った。福島県広野町では畑作業中の80代女性が死亡。熱中症とみられる。

5日は40度に迫る場所も多く、福井県坂井市で39・5度、兵庫県豊岡市で39・4度、福島市で39・1度、京都府舞鶴市で39・0度を観測。伊達市を含めて、それぞれの地点の観測史上1位となった。

## 沖繩や奄美にきょう再接近

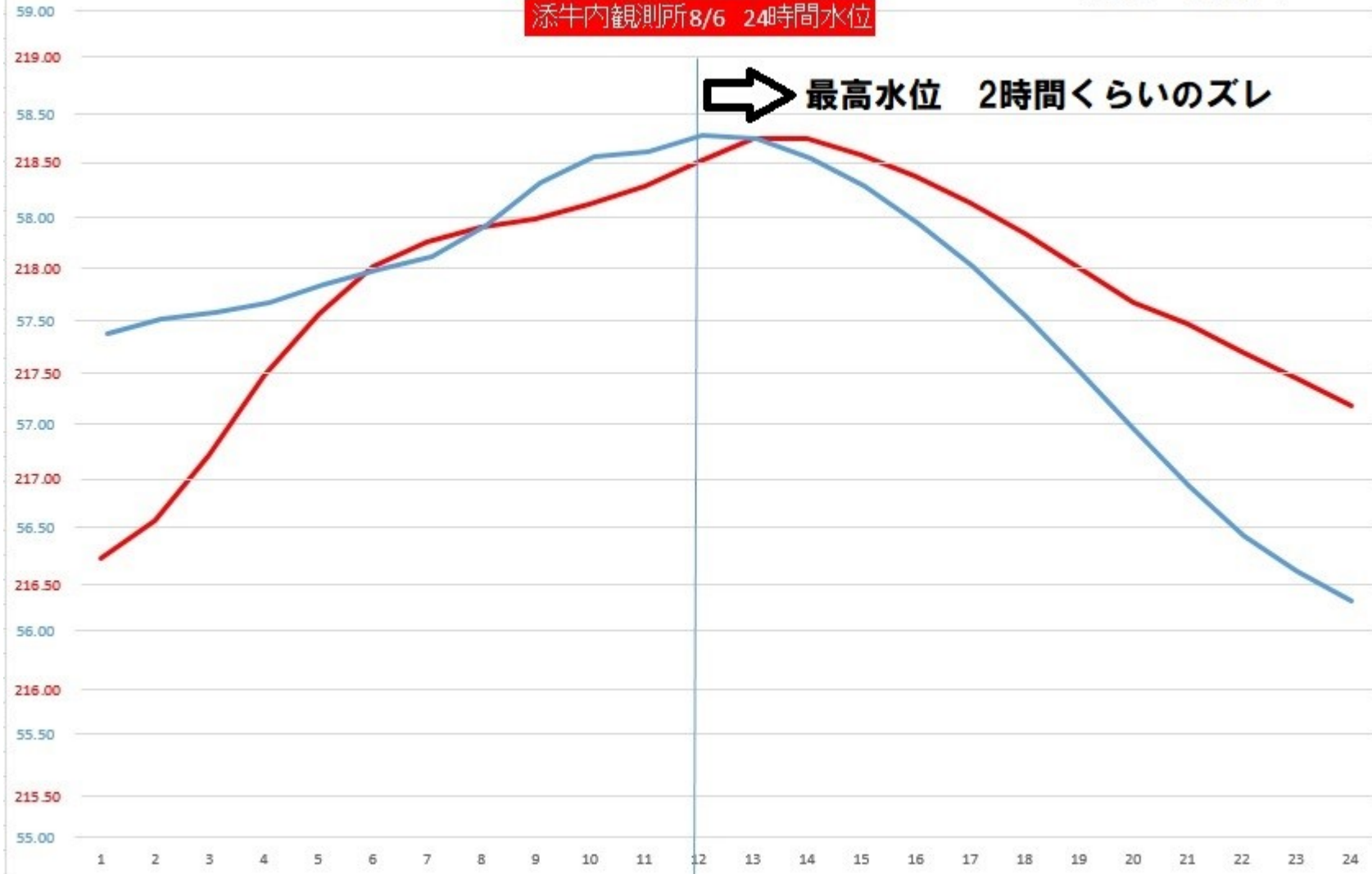
台風6号

台風6号は5日、沖繩本島や鹿児島県の奄美地方を暴風域に巻き込みながら、徳之島の西の海上をゆっくりと東に進んだ。6日にかけて沖繩や奄美に再び接近する。その後は日本の南の海上で勢力を強めて北上

多度志観測所8/6 24時間水位

畑地 資料2

添牛内観測所8/6 24時間水位



畑地 資料3

項目	水系名	河川名	観測所記号
水位	石狩川	雨竜川	3.01E+14
順位	洪水名称	最高水位(m)	生起日
1	昭和63年 年最高水位	59.26	1988/8/26
2	平成12年 豪雨	58.69	2000/9/2
3	平成26年 台風12号・11号及び豪雨	58.68	2014/8/5
	平成26年 地すべり	58.68	2014/8/5
4	昭和56年 年最高水位	58.64	1981/8/5
5	平成30年 梅雨前線豪雨及び台風7号	58.54	2018/7/3
6			
7	平成22年 豪雨	58.38	2010/7/30
8	令和元年 豪雨及び台風9号	58.30	2019/8/9
9	平成11年 豪雨	58.08	1999/7/29
10	平成13年 豪雨及び台風15号	57.70	2001/9/11
11	平成28年 台風11号	57.66	2016/8/21
	平成28年 台風9号及び豪雨	57.66	2016/8/21
12	昭和50年 年最高水位	57.63	1975/8/24
13	平成18年 融雪	57.51	2006/5/11
14	令和2年 豪雨	57.49	2020/11/20
15	平成23年 台風12号及び豪雨	57.40	2011/9/2
16	昭和62年 年最高水位	57.25	1987/5/1
17	平成4年 年最高水位	57.19	1992/9/26
18	平成3年 年最高水位	57.10	1991/9/7
19	昭和53年 年最高水位	57.02	1978/8/11

多度志観測所

氾濫開始水位		
氾濫危険水位	57.70	218.12
避難判断水位	57.50	217.85
氾濫注意水位	57.00	217.48

多度志(共成) ←←←←← 幌加内添牛内  
約70km 2時間程度水位ピークがずれる

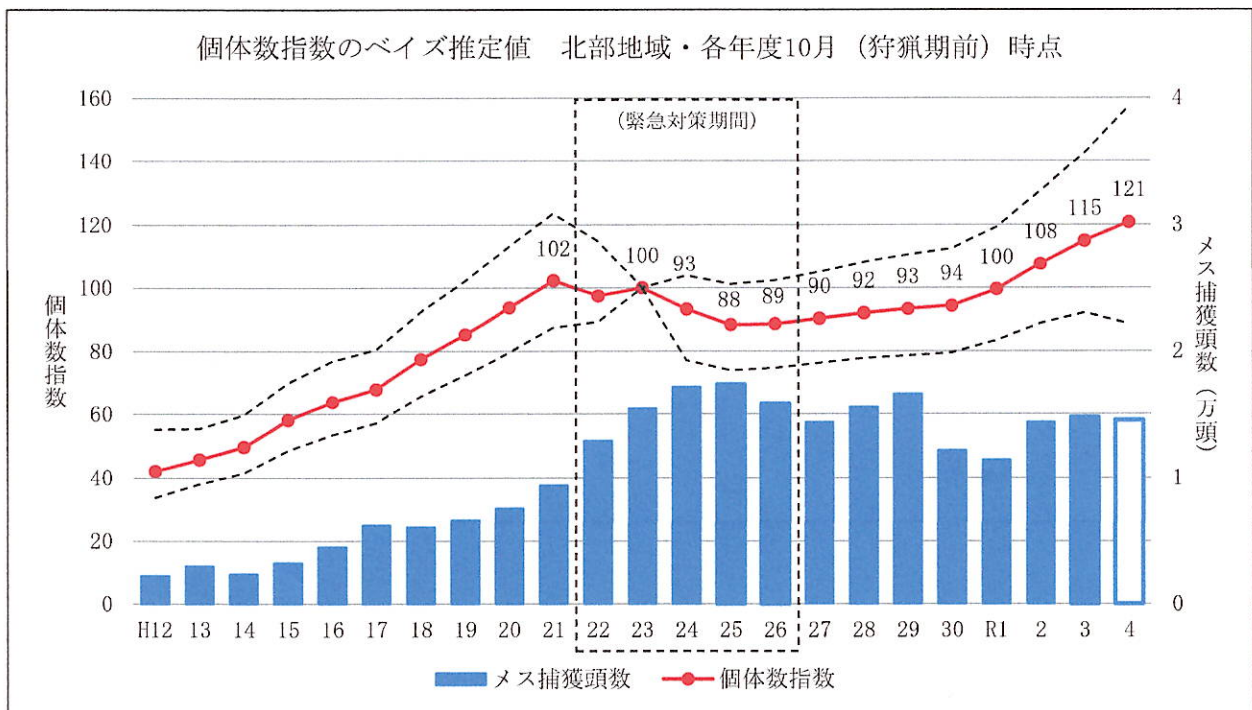
【町長】

<p>通告順</p>	<p>2</p>	<p>質問 議員</p>	<p>伊藤議員</p>
<p>質問 項目</p>	<p>持続可能な有害鳥獣駆除対策を</p>		
<p>質問 内容</p>	<p>現在沼田町では、沼田町有害鳥獣対策委員会が中心となり、農業者自らが農地を守ることを基本として、捕獲駆除の推進を行っています。</p> <p>関係者の努力の中、農業被害の拡大防止に向け成果を上げられていますが、エゾシカの生存数が近年増えているというデータもあるなか、最近ではクマの捕獲数も増えています。</p> <p>全国的に猟友会員の高齢化に伴うハンターの減少がその要因のひとつでもあると問題視されていますが、本町も同様のものと考えます。</p> <p>自然界とうまく共生しながら一方で農業被害や車との衝突事故や人的被害を出さないよう対策をすることが必要です。</p> <p>そのためには、将来に向けて安定的に担い手を育成・確保し、鳥獣捕獲等事業を適正かつ効率的に行うことが求められていると考えますので、以下の質問をいたします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 有害鳥獣対策支援員の協力隊員が、3年間で得た技術と経験、地域住民との信頼関係を継続して発揮してもらうことが重要と考えます。担い手の育成のためにも卒隊後も活躍できる場としての組織整備が不足していないか。</li> <li>2. 外部法人の設立もしくは委託により、町職員の負担軽減、近隣町村も含めた広域的な活動と効率的な運営により体制の強化に繋がると考えることは出来ないか。将来的には、環境省が推進する認定鳥獣捕獲等事業者制度（法人格が必要）を活用し、信頼性をより高め、人材を確保・育成できる新たな対策の展開が必要ではないか。</li> <li>3. 法人を運営するにあたり採算性が重要課題ではありますが、農業被害額は毎年1千万円前後で推移していることや交通事故などによる損害、観光などへの影響も懸念されることから、事業の委託や農業予算の見直しなどにより、農業や町内外の方々の安全、安心へ向けた支援が必要ではないか。</li> </ol>		

(2) 北部地域 (空知、上川、留萌、宗谷管内)

121 (95%区間: 89~157) 【令和 4 年 (2022 年) 10 月 (狩猟期前) 時点の指数】

- ・北部地域の個体数指数は、全域で平成 23 年度 (2011 年度) 頃まで増加傾向が続いた。その後、平成 24 年度 (2012 年度) 以降は減少に転じたが、平成 26 年度 (2014 年度) 頃から再び増加に転じた。
- ・平成 12 年 (2000 年) から令和 3 年 (2021 年) までの観察データと、新たな仮定を動態モデルに導入した解析により推定した令和 3 年 (2021 年) 10 月 (狩猟期前) の補正個体数の中央値を 17.7 万頭と固定し、1 年あたりの増加率を 21%と仮定し、令和 4 年 (2022 年) 10 月までの捕獲数を用いた結果、令和 4 年度 (2022 年度) の補正個体数は 13~27 万頭と推定された。
- ・令和 4 年度 (2022 年度) のメスジカ捕獲頭数は、狩猟によるものが約 0.4 万頭、許可捕獲によるものが約 1.1 万頭を記録し、捕獲推進プラン (2.1 万頭) を下回った。
- ・令和 5 年度 (2023 年度) のメスジカが令和 4 年度 (2022 年度) の捕獲実績 (速報) 並に捕獲されたと仮定した場合、50%以上の達成確率で増加に歯止めをかけるためには、令和 6 年度以降において、未観察地域も含めて年間約 2.2~3.4 万頭のメスジカ捕獲が必要であり、許可捕獲によるメスジカ捕獲頭数を約 1.9~3.1 万頭確保する必要がある。



※ R1の捕獲頭数は、速報値。

農林水産省 MP 50

年齢別狩猟免許所持者数

(単位：人 十の位で四捨五入)

年齢	1975 (S50)	1980 (S55)	1985 (S60)	1990 (H2)	1995 (H7)	2000 (H12)	2005 (H17)	2006 (H18)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)
18～19歳																	100	100	200	200
20～29歳	88,600	48,800	10,900	5,000	3,600	3,100	2,300	2,100	2,600	2,300	2,300	2,700	3,100	3,600	4,200	5,100	6,500	7,500	8,400	9,200
30～39歳	158,400	149,000	88,600	40,800	16,000	10,100	8,700	8,400	10,100	9,400	9,000	9,300	9,900	10,100	10,800	12,200	14,000	15,600	17,500	18,800
40～49歳	156,000	135,800	100,100	98,900	75,100	36,200	18,700	16,900	19,400	17,600	15,800	15,800	16,400	17,200	17,100	18,500	20,700	23,100	25,300	27,200
50～59歳	69,000	84,900	85,000	85,800	77,500	79,800	70,500	62,600	67,600	57,900	44,400	40,800	38,000	32,300	30,500	29,300	28,500	28,100	29,000	29,100
60歳以上	45,700	42,300	41,700	59,100	74,000	81,000	103,500	96,600	129,200	134,300	114,300	121,700	131,000	117,400	122,800	128,600	120,300	125,300	129,200	122,800
合計	517,800	460,800	326,300	289,500	246,100	210,200	203,600	186,600	228,900	221,500	185,900	190,200	198,400	180,700	185,300	193,800	190,100	199,700	209,600	207,300

※四捨五入のため、合計の数字と内訳の計が一致しない場合がある。  
 ※近年（H17年度以降）は毎年集計。それ以前は5年ごとの集計。  
 ※2007年（H19年）に「網・わな猟免許」を「網猟免許」と「わな猟免許」に区分。  
 ※2015年（H27年）に網免許及びわな猟免許の取得年齢を20歳以上から18歳以上に引き下げ。

